

## 実質化された人・農地プラン

注:本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
南伊豆町	竹麻地区(野辺)	令和3年1月31日	

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	6.1ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	5.9ha
③地区内における60才以上の農業者の耕作面積の合計	1.2ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.0ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	6.1ha
(備考)	

- 注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。  
 注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。  
 注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。  
 注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

## 2 対象地区の課題

野辺地区の農地は、ほとんどが水田であり、約70%が荒廃化していることから、農地利用を推進するには、基盤整備事業による優良農地の創出が必要である。基盤整備事業実施を前提として、今後の農地の利用意向を調査したところ、貸出希望者が35%、自分または後継者が20%、しばらく様子を見たいが35%、その他が10%となっている。しばらく様子を見たいと回答した方への明確な理由を確認していく。また、担い手の候補がいるが確定していないので確定に努める。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

野辺地区の農地利用は、地権者2人の他、他地区、町外からの利用希望もあるので耕作希望面積を確定し、希望者に集約できるよう話合い等で調整していく。

- 注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。  
 注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
到達	A	果樹	ha	みかん	0.2 ha	
到達	B	露地野菜	ha	きゅうり	0.3 ha	
到達	C	露地野菜	ha	白ネギ	0.2 ha	
到達	D	果樹	ha	みかん	0.5 ha	
到達	E	ブロッコリー	ha	ブロッコリー	4.9 ha	
計	5人		0 ha		6.1 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p><b>農地の貸付け等の意向</b> アンケート調査の結果、貸付け等の意向が確認された農地は、26,316㎡となっている。様子を見たいと答えた農地は、25,373㎡となっており、今後の様子を見たいと答えた地権者の意向確認を進めていき、貸付意向農地を把握する。</p>
<p><b>農地中間管理機構の活用方針</b> 竹麻地区を重点実施地区とし、将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として農地を機構に貸し付けていく。 中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。</p>
<p><b>基盤整備への取組方針</b> 農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、竹麻地区において、伊豆縦貫自動車道建設発生土を活用した基盤整備に取り組む。</p>
<p><b>新規作物の導入方針</b> 県営経営体育成基盤整備事業(高収益作物転換型)の採択要件として、水田5ha以上を畑地化し、高収益作物の作付面積を5割以上とする必要があることから、収益性の高い園芸作物を関係機関と検討し、生産に取り組む。</p>
<p><b>地域外の人材の確保に関する意向</b> 借受者による耕作面積を確保するため、町内又は町外から借受希望者の募集を行い、地区内農地が有効利用できるよう営農構想を定めていく。</p>

(参考) 農地の貸付け等の意向(任意記載事項)

	農地の所在(地番)	貸付け等の区分(㎡)		
		貸付け	作業委託	売渡
1				
2				
3				
4				
5				
6				
	計			

注: 農業委員・農地利用最適化推進委員が農地の貸付け等の意向を確認した面積を農地利用最適化交付金の成果実績払いの対象とする場合には、人・農地プランにおいて地番、面積を記載することが必要です。

(留意事項)

本様式をそのまま公表様式として活用する場合には、中心経営体の氏名等特定の個人が識別される情報が含まれることから、本人の同意を得る等個人情報保護条例等に抵触しないよう留意してください。

なお、本人の同意が得られない場合には、その方の氏名を伏せるなど、個人が識別されないよう留意してください。